

## 2 学年の実践記録

### (1) 主題に迫るための具体的な手立て

[手立て1]

- ・ 第1学年のときに遊んだ大蔵川や勝田公園へ行ったことや、第2学年の1学期の「まちに出かけよう」を振り返り地図にまとめ、「もっといろいろな場所へ探検に行ってみたい」という意欲を喚起する。そして探検の際は児童の意識を「自然」や「生き物」から「まち」や「人」へと広げるために「人」との出会いを仕組む。このようにして、「人とのかかわり」を大切にして繰り返しながら学習を展開していき、地域の人と関わり合うことの楽しさを実感させるようにする。
- ・ 時数の削減と内容の精選を図るために、見通しをもった計画を立てる。

[手立て2]

- ・ まち探検で見付けた大蔵のまちの「すてき」を様々な方法で表し、小グループで発表する。その「伝え合う」活動を通して、大蔵のまちの人たちが自分たちの生活に関わっていたりしていることに気付かせるようにする。
- ・ 探検で気付いたことを地域の方と手紙・新聞・ポスターなどで伝え合う活動を繰り返して行い、互いのことを理解し合い、心を通わせ、かかわることのよさや楽しさを実感できるようにする。

[手立て3]

- ・ まち探検でインタビューしたり、見付けた「すてき」をまとめたり発表したりする際は、国語科や図画工作科等での言語活動や表現方法を生かした活動を行う。

### (2) 研究の実際と考察

[手立て1]

年間の見通しをもった単元構成を考えていき、時数の削減と内容の精選をするために、1学期の生活科「ときどき わくわく まちたんけん」の単元から繋がりをもたせる計画で行った。導入で、1年生のときに通学路探検をしたり大蔵川や勝田公園で遊んだりした大蔵のまちでの楽しい活動を振り返り、お気に入りのところを出し合いながら校区地図に貼っていく活動を設定した。(青の付箋) その際、その場所や好きな人にまつわるお話をみんなの前で紹介し合い校区地図に貼っていった。さらに2学期の本単元に入る際にも、1学期のまち探検を通して見つけたお気に入りの場所を書き込ませた。(黄色の付箋)

この活動により、友達のお気に入りの場所や人が自分と同じであったり、逆に知らない場所や人のことを新たに知ったりした子どもがいた。そして、大蔵のまちの様々なところに「すてきな場所や人」がまだたくさんあることを共通理解することができた。(資料1)

1回から4回目の全員での探検では、意識は「自然や生き物(植物・昆虫類)」が中心であった。第5回目以降は、意識をまちや人へ広げるために、探検の途中で人との出会いを意図的に仕組んだ。校区の中でも、景勝町・豊町方面にはほとんどの行ったことがない様子だったので、とても興味深く探検をしていた。(資料2・3)

その結果、探検後に書いたワークシートには「大蔵のまちにはお醤油をつくっている宇佐美さんがいました。」「お酒を造っている店があることを初めて知りました。」など、人とまちのことに内容を書くようになってきた。



さらに、地域にある公共施設「大蔵市民センター」にも探検へ行った。これは単元『みんなで行こうよ つかおうよ』の学習で施設を見学したり、そこで働いている人々と触れ合ったりして、公共施設や公共物はみんなで使うものであることや、それを支えている人がいることが分かることをねらいの1つとしている。この学習を通して、自分の生活は「人」との関わりが深いことを実感させるようにした。(資料④)

資料④



このように、人と関わることや大蔵のまちについて知る事の大切さや楽しさなどをもたせた上で、次のグループでの探検へとつなげていった。

〔手立て2〕

2・3回目のまち探検では、目的地別にグループ編成を行い探検に出かけた。探検への意欲や目的意識をもたせるために、探検の際に持っていく物として名刺を作り、質問内容を考えたり挨拶の練習をしたりと探検の準備を行った。(資料⑤) 希望となぜ、そこへ行きたいのか理由を基に探検場所を決めた結果、39名が9~11か所に分かれて探検させてもらった(右表参照)。

資料⑤



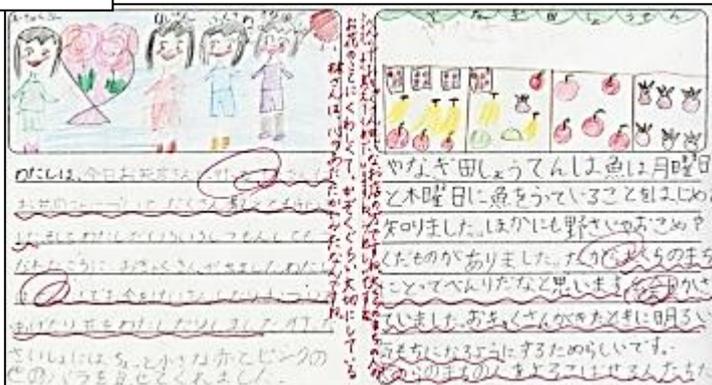
【2・3回目の探検場所】

- ・梶栗鮮魚店
- ・大蔵保育園
- ・柳田商店
- ・お花や
- ・サンキュードラッグ
- ・乳山神社
- ・乳山幼稚園
- ・杉の実保育園
- ・大蔵交番
- ・溝上酒造
- ・ままや

2回目の探検後、まち探検で見つかり気付いたりした「大蔵のまちの『すてき』」について感想文を書かせた。(資料⑥)

資料⑥

ワークシートに書かれている内容から、まち探検を通して施設(ここでは店)の様子だけでなく、そこには人の存在があり人への配慮がなされ、それが「すてき」なこととして気付くことができた。「すてき」の視点が「自然や生き物」から「人」へ向いていることが読み取れた。



2回目のグループでのまち探検を個人で振り返り、その後全体でも感想を述べあった。すると、もっと大蔵のまちの『すてき』を探そう、探したいとなり3回目の探検へ行くことにした。

今回の探検は、1回目の校区全体を見て回る探検は全員で、2回目と3回目は各グループに分かれての探検であった。繰り返しの探検を通して、今までは主に「自然や生き物(虫)」に目が向いていたが、意図的に「人」へ目を向けるように仕組んでいったので、「人」と関わることの楽しさを実感したり発見できたりした。また、少人数のグループに分かれて2回探検を行ったことで、地域の方の優しさや思いを直接することができた。繰り返しの探検は、「次は〇〇に行き、こんなことをしてみたい。」と自分のめあてをもって探検することができた。「自分が見つけた大蔵のまちの『すてき』を伝え合う会」をした際は、「お話(伝え合い)タイム」や振り返りカードに書かれた個の気づきを全体へ広げたことで、「伝え合い」の中でも意識を「大蔵のまちや人」へと向けさせることができた。全体で振り返る活動でも「まちのよさ」や「まちの人とのかかわる楽しさ」などを取り上げ、全体の場で認め称賛することで、気づきを価値づけることができた。最後の活動として、地域の方に感謝の気持ちと自分が見つけた大蔵のまちの「すてき」を伝える活動として絵手紙等を作成した。これは前時の学習の終末に、次はどんなこと

がしたいか尋ねると「まだ伝えたい、作った物を大蔵のまちに貼って知らせたい。」と言葉が返ってきた。地域の方と直接ふれ合う中で地域の方と関わる楽しさが分かり、自分の思いや願いを進んで交流する力が育まれていったと考える。これまでに、意図的・計画的に地域の人とのふれあいを取り入れてきたので、子ども達から自然に「お礼の手紙を書きたい、お礼の気持ちを伝えたい。」という思いを出させることができたのではないかと考える。

〔手立て3〕

今年度は教科との関連を重視していき、主に国語科との関連を重視した指導計画を立てていった。国語科の「話す・聞く、書く、読む、言語領域」の活動を生かすために、あらゆる活動で関連させた学習活動を行った。

まち探検が終了した後に、大蔵のまち探検へ行って見付けた「大蔵のまちの「すてき」を伝える会」をする前に、一人一人が見付けた「すてき」とはどんなものがあったのかを確認をした。確認後は出された「すてき」の振り返りができるように掲示しておいたので、自分が気付かないことも「すてき」につながることに気付かせたり「すてき」の共通理解ができたりした。(資料⑦)

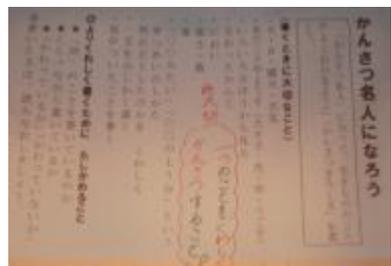
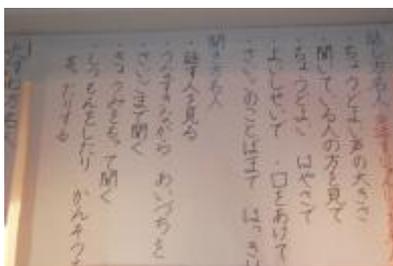
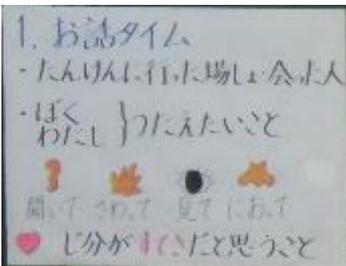
資料⑦



準備としては、まず伝えたい内容と伝えるときにより効果的にするための資料作りを行った。教師と子ども一人一人との対話を通して気付きや感動を引き出し、共感し、気付きを価値づけていった。この見取りと支援によって、子ども達は表現したいことを意識し、よりよく伝えられる方法を選択して工夫しながらまとめていった。自分なりの言葉と表現で、自信を持って伝えることができた。

次に「話し手」として伝える内容を考えるときに、1学期の国語科の単元「かんさつ名人になろう」での『経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。』を生かして書かせた。書くときには相手に自分の伝えたいことがしっかりと伝わるように、言葉の羅列になることなく『すてき』と思ったことを、五感を使った言葉でも表現させるようにした。(資料⑧右2枚は教室に常時掲示)

資料⑧

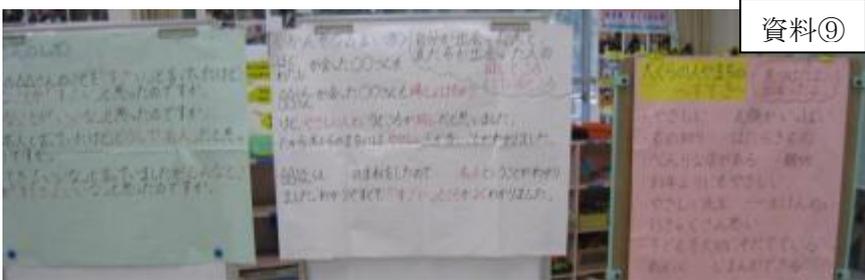


資料は教師が撮った記録写真を使って切り貼りしたり、吹き出しや自分の感想を簡単に書き入れたり、国語科や図画工作科で学んだカードの作り方を参考にして作り上げていた。資料作りの時間は予め2～3単位（2～3時間）と決めて、資料作りが主にならないようにした。

「聞き手」の聞く視点や感想、質問の仕方等は「伝える会」の前に指導を行った。「どんなことが『いいな』ということですか。」「どうして『名人』だと思ったのですか。」や、自分が行った探検場所や出会った人と比べる等、聞くポイントを事前に押さえた。さらに発表内容だけでなく、声の大きさや速さ等について音声的な「話し方」についても「話し手」「聞き手」の双方共にアドバイスをした。(資料⑨)

手立てとしては、発表会の流れやポイントが分かるように準備の段階から掲示をしたり、本時では確

資料⑨



資料⑩



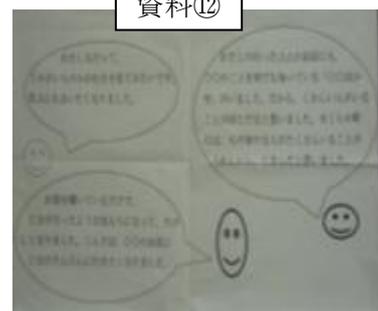
認ができるように黒板の全面に貼っておいたりした。(資料⑩)

「大蔵のまちの『すてき』を伝え合おう」は3回行った。1回目は学年で行い、同じ探検場所へ行ったメンバー構成をした。そして同じ場所でも、それぞれが見付けた「すてき」が同じであったり違っていたりすることに気付くことや、伝え合いの「話し方」「聞き方」等を学ぶことを中心とした。2回目と3回目の伝え合いは、各学級で違う場所に探検へ行ったグループで編成し伝え合いをさせた。発表は1人4分で、その中に質問・感想を言う時間も含み終わったら交代するとした。「めあて」を確認し、「自分が見つけた大蔵のまちの『すてき』がしっかりと伝わるようにはっぴょうすること」と、聞き手は後で『質問・感想タイム』があるので聞きながら、気になったりしたことや自分が行った場所と比べたりしながら聞くこと」等、再度確認をした。

資料⑪



資料⑫



左図は、ポスター形式の発表資料、右は写真を使い、吹き出しを入れた発表資料。(資料⑪) 2回目の「すてき」発表会の前に、資料を効果的使ったり分かりやすい伝え方をしたりした子どもの内容を紹介した。また例として、相手に自分の思いが伝わりやす質疑応答の仕方を示した。(資料⑫) さらに、書き方も示した。

【しつもんやかんそう、書き方のれい】

- ・ 2回目に行った〇〇の△△さんは、・・・だけど、3回目に行った◇◇の☆☆さんも・・・でした。だから、大蔵のまちには、・・・な人がいっぱいいることがわかりました。
- ・ わたし(ぼく)が行ったのは、2回目は〇〇で、3回目は◇◇でした。それぞれのいいところは・・・です。気づいたことは、たんけんをした場しょはちがうけれど、・・・なところは同じ(にている)など思いました。だから、大蔵のまちは、  
・・・なところだと気づきました。
- ・ わたしは、大蔵のまちは、すてきがいっぱいで、今までよりも、もっとすきになりました。
- ・ ぼく(わたし)は、〇〇の△△さんのすてきをたくさん見てあこがれました。だから、大きくなったら、△△さんのようになりたいです。
- ・ 1回目と2回目のたんけんにくらべて、3回目のたんけんで、わたし(ぼく)はすすんであいさつをしたり、しつもんをしたりすることができました。すすんでかかると・・・だなど思いました。(気づきました。)

発表内容は、「大蔵のまちの『すてき』を伝え合おう」が「めあて」なので、1回目と2回目の探検と比較したり、出会った人のことをどう思い、これから自分はどう関わっていきたいか等を書いたりして伝えるように指導した。書き方が分からない子どももいるので、どのような書き方・発表内容であれば伝わるのか、例文を与え全員の参考になるように掲示した。

### 【3回目（本時）での「伝え合い」の様子】



#### 【柳田商店へ探検に行った児童の発表内容（一部）】

- ・ 柳田商店には、色々な物を売っていて絵も飾っていました。絵は柳田さんのお母さんがかいたそうです。お店を明るくするためにかいたそうです。買い物へ来たら明るい気持ちになることができるから、買い物をして帰っていたお客さんは、とてもうれしそうなんだなと思いました。お客さんのことを思っているところが「すごい」と思いました。



#### 【質問に対する答え】

- ① 柳田商店には、お菓子もあるし、野菜もありました。買い物に来られない近くのお年寄りに配達もしているそうです。
- ② お店を始めて80年も続いているそうです。

#### 【質問内容の一部】

- ① いろいろな物って、どんなものですか。
- ② ほかにも「すごい」ところがありましたか。



#### 【お花やに探検へ行った児童の発表内容】

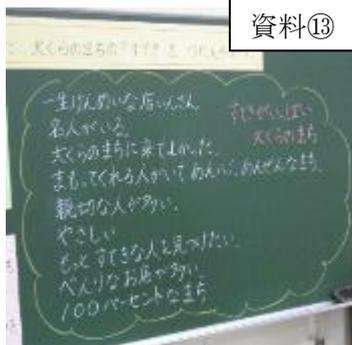
- わたしが見付けた「すてき」は3つあります。1つ目はお花のことなら何でも知っていることです。例えば、このお花はこの時期に咲くなどいろいろ知っています。2つ目は、とってもやさしいことです。どうしてかという、重い荷物を持った人がいたら優しく笑顔でタクシーまで送っているからです。3つ目は、とても大きな声であいさつをします。お客さんが来たら大きな声で元気よく笑顔で「いらっしゃいませ。」と言い、お客さんが帰るときは「また来てください。」と行っていました。わたしは林さんみたいに「あいさつ名人」にもなりたいです。

伝え合いは発表内容からも「すてき」と思った理由や根拠などが入れられていた。聞き手も、なぜ「やさしい」と思ったのか、聞き逃さずに質問ができていた。

2・3回目の授業の終末では、全体で大蔵のまちや人の「すてき」を伝え合った感想や「大蔵のまちって『すてき』だな」と思ったことを書いて発表する場を設けた。書いたことを発表する場面の「大蔵のまちや人の『すてき』」を話し合う場面では、一つの場所の『すてき』を出させた後、意図的に他の場所の『すてき』を出させ、両者を比較して共通する『すてき』を考えさせるようにした。そうすることで、場所は違っても物を作るのが上手だったりお客さん思いの人がいたりすること、優しい先生や元気な子どもたちがいることなど、共通した『すてき』があることを子ども達に気付かせることができた。

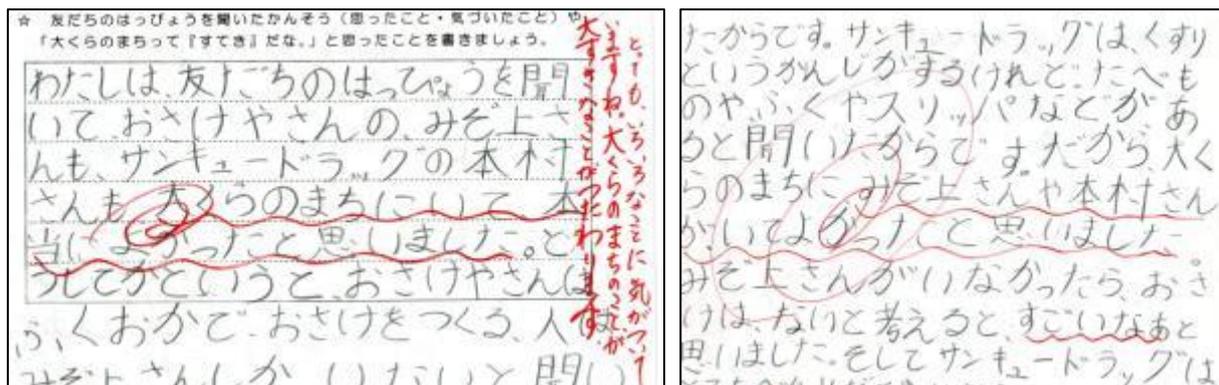
グループごとにお互いの発表を聞いたことで、知らなかった場所や人の『すてき』が分かり、まだ行ったことのない場所や人への興味・関心をもった子どもがいた。「〇〇さんと△△さんの発表を聞いて、□□に行きたくなりました。」等、自分が住む大蔵のまちを再認識する気付きが見られた。このように個人の「すてき」をみんなで共有したことへの喜びや満足感を感じ取ることができた。(資料⑬)さらに「あいさつ名人になりたいです。」とまちの人への尊敬の気持ちも芽生えた気付きも見られた。

資料⑬



下の振り返りカードは、「今までの探検を振り返ったり、友達の発表を聞いたりして、「大蔵のまちって『すてき』だな。」と思ったことを書こう。」と、各グループの発表後に書かせたワークシートである。繰り返し探検をしたり、友達の発表を聞いたりしたことで、大蔵のまちのよさに気付くことができたことが分かる。そのようなことを考えると、気付きの観点では

十分満足できる学習状況と言える。(以下は、「伝え合い」後に書いた感想)



### (3) 成果と課題

〔成果〕

- 今年度は昨年度の課題を踏まえ、カリキュラムの見直しを重点的に行った。昨年度は大幅に時数を超過してしまった。計画を立て必要な活動ばかりではあったが、やはり内容の精選をする必要は不可欠であった。そこで1学期から2学期のまち探検までの全体構想を立てて研究を進めることにした。

1学期は季節やまちの変化や様子(建物・景色・生き物など)を中心にし、2学期の探検は、そこに住んだり働いたりしている人へ目を向けさせるようにした。さらに、探検で見つけた「すてき」について伝え合う発表会を、3回の探検がすべて終えて一番心に残り「すてき」を伝えたい人や場所について1回のみでの発表とした。昨年度は探検を終えるごとに見つけた「すてき」を発表させたので、その都度準備の時間を要した。今年度はまとめの段階で集大成として発表したため、時間の削減が可能であったことや、発表のマンネリ化が押さえられ集中して準備や発表ができたと思われる。

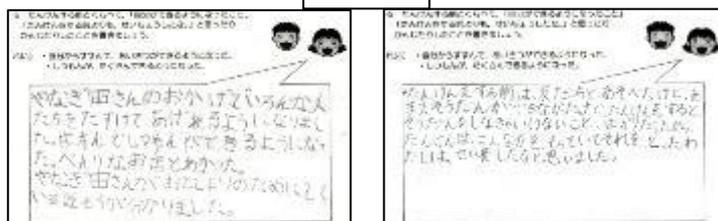
- まち探検は計画的に少人数のグループに分かれて2回探検を行うことで、地域の方の優しさや思いを一人一人が直に感じる事ができた。それが、探検で見つけたことなどを発表会で友達に「伝えたい。」という意欲へと導く事ができた。また、繰り返し探検を行うことで、「次は〇〇に行って、こんなことをしてみたい。」と自分のめあてをもって探検する事ができた。

今までは主に「生き物(虫)や自然」に目が向いていた意識を「大蔵のまちや人」へと向けさせるために探検へ行った際は、「人」との出会いを仕組み会話をしたことで、川の生き物だけでなく「人」とのかかわりにも目を向けさせる事ができた。また、「お話タイム」や振り返りカードに書かれた気付きを全体へ広げることで、子どもの意識を「大蔵のまちや人」へと向けさせる事ができた。

地域の人と双方向のやりとりをし思いを伝え合う中で「人」と関わる楽しさが分かり、自分の思いや願いを進んで交流する力が育まれていったと考える。また全体で振り返る活動では、まちのよさやまちの人と関わる楽しさなどを取り上げ、全体の場で認め称賛することで、気付きを価値づける事ができた。学習後の実態アンケートでは、「生活科の勉強は楽しいか」の質問では「楽しい」が91.9%、「探検をしているいろいろなことを見つけたり気付いたりしたことはあるか」の質問では「ある・少しある」が91.8%、「大蔵のまちの人は好きになったか」の質問では「とても好き・好き・少し好き」が97.3%の結果がでた。

このように大蔵のまち探検によって地域の人とのかかわりを繰り返し行ったことで、地域への親しみや愛着をもち、進んで人と関わる事ができるようになった。また、伝え合い交流することで、新たな発見をしたり、自分の見方・考え方を広げていく事ができるようになったりしたのではと思われる。それは資料⑭から読み取ることができる。

資料⑭



- 今年度の大きな重点目標として、「教科との関連」を挙げていった。特に国語科との関連を意識して行った。「聞く・話す」「書く」ことに苦手意識をもっている児童も少なくないので、個別指導を入れ、特に発表会の前には教師と子ども一人一人との対話を通して気付きや感動を引き出し、共感し、気付きを価値づけていった。この見取りと支援によって児童は表現したいことを意識し、よりよく伝えられる方法を選択して工夫しながらまとめていった。今までの学習を生かし自分なりの言葉と表現を使い自信をもって伝えることができたのではないかと思われる。資料⑧・⑨・⑩・⑫は常時教室や生活科室に掲示していたので、何か活動する際は「国語の勉強でした、この勉強を使えばいいね。」「この勉強を生かすことができるね。」等、必ず押さえていった。すると、掲示物を見ながら考えたり確認をしたりしている姿がよく見られた。教師も意識し関連を持たせた単元構成を行ったからこその成果と考える。

文章を書くことが苦手な児童も、「伝え合い」の1回目の感想で、何を書いたらよいか分からず戸惑っていたが、2回・3回と友達の発表を聞いたり「書き方の例」を示したりしたことで、3回目は自分の力ですらすらと書くことができ、全体での振り返りでは挙手をして書いたことを発表することもできた。学習後のアンケートでは、「国語科の勉強が生活科の勉強の役に立ったり使ったりしたか」の質問に対し83.8%の児童が実感している。発表についても「国語科の勉強で役に立ったことはどんなことか」の質問に対し、「話を聞く・する」「発表をする」の割合が多く占めており、日々の積み重ねと繰り返しの学習の積み重ねの必要性を痛感した。

#### 〔課題〕

- 単元全体の指導計画の見直しをしていったが、さらに見直す必要であると思われる。今年度は、教科との関連を重点的に行っていたので国語科や図画工作科、道徳等他教科との関連を図って計画して実施した。昨年度よりは随分と精選したが、大幅に時数をオーバーしてしまった。より一層指導計画を綿密に組むこと、他教科との関連をより図ること、そして何より指導計画や内容そのものを大幅に見直さなければならないと痛感した。
- 今年度は探検後の「伝え合い」の発表をまとめの一回のみにした。これにより昨年度の課題として挙げた「すてき伝え合い発表会」の「マナー化」は押さえられたのではないかと、全体の様子から感じている。ただ、1回のみでの発表でよかったので、1回の探検ごとに思いを膨らませていった方が、より一層発表内容の充実がのぞめたのではないかと考えられる。検討の余地がある。
- 探検の仕方や相手との交渉、探検場所の数等の見直しが必要であると思われる。相手先との交渉・連絡・調整における教師の負担も大きい。しかし地域教材であり、一人一人の思い等を大切にすることを考えた学習であることを踏まえると、これ以上の精選は容易ではないと思われる。しかし改善するための工夫は必要である。